

第12回定期通常総会



とき 1996. 6. 20(水)
 ところ かながわ労働プラザ
 総会場での鈴木志げ子代表幹事挨拶

退職者

こだま会報

No. 36



もう一言、大切なことを
 大切な時に『こだま会』とともに

第二一回

定期通常総会報告

(会報35号 二〜七頁参照)

本年の総会は、六月二〇日(水)昨年新装成った県立かながわ労働プラザ(旧県勤労会館)の4階第三会議室で開催された。新しい会場と、ウイークデイと言うこともあり出席者の心配もあったが、定刻には木村幹事の司会で開会、会員総数七四四名、本日の出席者七八名、委任状四〇八名、計四八六名昨年を上回る参加となり会則一二条により会員総数の三分の一に達し総会成立の宣言となった。

開会

開会の挨拶(要旨) 加藤副代表幹事
 今回初めて出席なさった方を含め、これだけ沢山の会員のお顔を拝見して、大変嬉しく感じております。

そうした中で最近の国政・地方自治体の行政については、高齢者に冷たい流れが見えて来ています。高齢者としてもあらゆる団体や地域でも手を結び、運動の輪を大きくし、より充実した「こだま会」にして行きたいと思っております。皆さんのご協力をお願い致します。

代表幹事の挨拶(要旨)

鈴木志げ子代表幹事

皆さんこんにちは、おいそがしい中を本日出席いただきまして、ありがとうございます。出席の方が多く大変嬉しく感じました。これは、こだま会に対する熱い期待があるからかと思えます。改めて我々役員は一層頑張らなくてはと思います。

アンケートにつきましては後で報告致しますが四百通以上のお返事が返って来ました。また旅行の会、歴史散歩の会等いろいろとグループ活動も進めています。

一年間の経過報告にもございますが、昨年の総会で決定をみております、三つの委員会

- ① 総務企画委員会
- ② 趣味の会推進委員会
- ③ 広報編集委員会 を昨年八月から発足させ活動を始めております。

ご存知のとおり、高齢者を取り巻く情勢はますます厳しくなっています。来年度からの消費税5%についても大変です。高齢者としても團結して、声を出し、政治を変えるよう活動しようではありませんか。

私たちこだま会は県職労を母体として発足しましたので、こだま会は県職労の応援団として現職の皆さんを外から応援していこうと思っています。

県職労の動きと、又私たちは足並みを揃えて楽しい老後を、みんなで行きたいと思っております。今後とも宜しくお願い致します。

来賓の挨拶から(要旨)

県職労 中原中央執行委員長

こだま会の発展について祝います。会員のアンケートを見せてもらいました。会員の要望や実態がリアルに出ており、新年度の活動方針にアンケートの結果をどう生かすかが盛り込まれています。県政の現実については、知事が変わって一年以上経ち、今、大きな曲がり角にきております。

今こそ県職労がイニシアチブを取るときです。八月二十七日に結成五〇周年を迎えるに当り、より団結を固め労働組合運動を進めてまいります。こだま会の応援を期待します。

続いて

神奈川自治労連退職者会・新倉事務局長 全労災横浜支所 支所長より祝辞と激励の挨拶があった。

議事

議事にはいるに先立ち、議長選出しに移り、満場一致で荒井太郎氏を選出した。

Ⅰ 一九九五年(平成七年)度

経過報告

青木事務局長から次の各項について説明が行われた。95年7月会員の中から約30名の方に委員になってもらい三つの委員会の発足をさせた。

- (1) 総務・企画委員会
- (2) 趣味の会推進委員会
- (3) 健康ウォークの会・料理教室・歴史教室・旅行の会・お茶の会等
- (4) 広報編集委員会
- (5) 広報編集委員会
- (6) 多数数による編集委員会を持ち会報の発行につとめた。
- (7) 会員拡大

職員課主催の「退職予定者説明会」

県職労支部主催の「退職者慰労と激励の集い」等に出席し入会勧誘に努力し、会員数七百名を突破した。

- (1) 事務局体制
- (2) 役員ボランティア活動によって事務処理を進めている。
- (3) 財政について
- (4) 会員の増加、会の諸事業の活性化に伴い、支出が拡大する方向にあるので効率化に努めている。
- (5) 手作り文化祭
- (6) 神奈川県自治労連退職者会の実行委員会に加わり実施した。
- (7) その他

Ⅱ 一九九五年(平成七年)度

収支決算報告

同じく青木事務局長より収支決算にもとづき具体的に説明がなされた。

Ⅲ 一九九五年(平成七年)度

会計監査報告

上野会計監査より五月七日監査の結果について、妥当に執行されていたと報告がされた。

以上ⅡⅢについて一括採決の結果、拍手多数により承認された。

Ⅳ 一九九六年(平成八年)度

活動方針(案)

活動方針について、岸事務局次長より議案に沿って説明が行われた。

- (1) 私たちを取り巻く情勢(内容略)
- (2) 活動方針
- (3) アンケートに寄せられた会員の要望や意見にそって、みんなに参加できる楽しい催しや、要求実現にむけて積極的に取り組みを進める。
- (4) 課題の実現へむけて踏み出そう。
- (5) 総務・企画委員会
- (6) みんなで楽しめる企画を、多彩に
- (7) 趣味の会推進委員会
- (8) 会員の顔の見える会報をめざして
- (9) 一、〇〇〇名の会員をめざして
- (10) 県職労支部との連携をつよめ「こだま会報」配布等職員58才よりのつながりを保つようにする。
- (11) 事務局活動の充実
- (12) 会員のニーズに応える諸活動を進める、各種共済事務の統括、相談窓口の取り次ぎ等県職労と連携を取り活動を進める。
- (13) 他団体との連携
- (14) 横浜市従退職者会、鎌倉市職退職者会との連携をとり県自治労連退職者会との取り組みを進める。

Ⅴ 一般会計 一九九六年(平成八年)度

収支予算(案)



参加者のみなさん

Ⅵ 積立金会計 一九九六年(平成八年)度収支予算(案)

V、Ⅵについて岸事務局長次長より、議案に記載の収支予算の(案)について説明がなされた。

以上Ⅳ、V、Ⅵについて一括採決が行われたが、質疑もなく拍手多数をもって原案どおり可決された。

ここで、司会が荒井議長に謝辞をのべ、皆さんの拍手で議長降壇された。

特別報告

『生活実態とニーズに関する調査』について 生方副代表幹事

今年二月実施したアンケートによる会員の生活と意見を聞く調査を、総務・企画委員会で実施した。会員の60%を超える方々から回答があり、意見・要望も皆も寄せられ、大成功であった。健康、住宅、生計、相談相手、趣味など会員の全体像が浮き彫りになった。こだま会の活動や会報についても多くの会員から期待が寄せられていることも分った。(報告の詳細は省略、会報No35の6、7頁を参照)

閉会

閉会のことばは、川井幹事より述べられた。今私たちとして三つの柱でな

懇親会スナップ



くつろぐ会員、9Fで展望もよし

阿部さんの日本舞踊↓



っていると思う、健康・趣味・生活。健康、趣味についてはこだま会で検討しますが、生活の問題として、年金改悪・介護保険制度・消費税・老人医療費の改悪。これから生活が厳しくなります。 団結を固め充実したこだま会を進めて行きましょう。

懇親会

総会終了後、同じビル9階の、横浜

港大展望のレストラン「ガル」に集い、児玉氏の乾杯で賑やかに始まった。 明田幹事司会のもと自己紹介等のなか、旧友との話に花が咲き、近況報告の交換が盛大だった。

「こだま会」よかったな

七宮 清

一九九五年の三月、三五年間勤めた神奈川県庁を退職した。現役の頃、退職する先輩の「〇〇さんの労をねぎらう会」で、「大変、水いことご苦労さまでした。これからも健康に注意して第二の人生を楽しんでください」とまことしやかに送別のことばを述べていた。しかし、自分がその立場になって初めて退職する人の気持ちが変わった。

幸い、関係者の御努力により、六月から「神奈川県山林種苗協同組合」に再就職させていただいた。仕事も現役のとことあまり変わらず、関係者のご協力に感謝している毎日である。

「仕事は人間関係さえうまくいけば、八十%出来上がったも同じ」とよくいわれる。確かに、仕事を進めるのは人であり、決して機械ではない。人間関係に重点をおいて仕事を進めることが大切であることを実感した。

会員で、浦若流の家元の阿部光世さんの踊りをいただき会場の盛り上がりは最高。踊りを始めカラオケ等名残りつきない様子でしたが、次回の再会を約し閉会した。

「こだま会」に入ろうと思っていた。その理由は簡単である。野生のキノコに関心をもっていたので、秋になると県職労のご家族と一緒に富士山に出かけた。参加した人達の全ての顔を覚えていたとはいえないが、たいていは覚えている。その人達と再会できることが楽しみだったからである。

初めて総会に出席し、皆さんが健康で若々しく和気あいあいなのはびっくりした。「さすがに、昔とつたきねづかなのかな」と思った。総会の議案も具体的にわかりやすく会員の生活に直接関係するものばかりであった。総会の後、懇親会が行われ、初めて出席した人達が紹介された。アルコールがまわるにつれ、それぞれ隠し芸が披露され、会は盛り上がった。 「こだま会」に入会して、本当によかったな、と考えながら会場を後にした。

(ななみや きよし)

趣味の会行事案内

歴史教室

○歴史教室(第二六回)

とき 平成八年七月二四日本
 ところ 神奈川県自治会館
 テーマ 秀吉の妻 おね——戦国時代のトップレディー
 参加者 四三名
 特別講師 荒井太郎氏

秀吉の妻北政所おねは、一五四八年愛知県清州町で、信長の家来杉原定利の二女として生まれた。
 そのおねが秀吉こと木下藤吉郎と結婚したのは、一五六一年で新郎三六才新婦十四才の時であった。
 戦に明け暮れる戦国末期、おねは良き伴侶として夫を助けた。秀吉は順次功績を挙げ琵琶湖畔の長浜城の主となり、おねも晴れて城主夫人の座についた。結婚十二年目のことである。この時代、女性は表向きの事には余り口を出さなかったが、おねは政治向きの事にも積極的に発言し、秀吉もまた妻の言葉をよく聞いたようである。

一五八二年本能寺の変で信長が死に、風雲急を告げる天下の状況下にあって秀吉は、智略縦横術策の限りを尽くし、遂に天下を掌握するに至った事は歴史の告げる通りである。
 一五八五年秀吉の関白就任に伴い、おねは北政所と呼ばれるようになった。女性として偏見が少なく、政治についてもしっかりとした自分の意見を持っていた。秀吉の多くの側室に対しても公正をもって臨み、名実ともに天下人の「かかさま」戦国のトップレディーであった。

信長の妹お市の方と浅井長政の間に三人の娘があり、長女茶々がお吉の側室に上り、京都の淀に居し淀殿と呼ばれるようになった。彼女は、秀吉の子鶴松と秀頼の二人の男子を生む。しかし鶴松は二歳で病死する。

秀吉は大阪城、聚楽第、伏見城、そして美術工芸茶の湯と安土桃山文化を築いた。一五九三年享年六三歳で亡くなる。おねは五一歳であった。
 一五九五年関ヶ原の戦には北政所は大阪方に味方しなかった。そこには淀殿に対する反発や、ライバル意識といった女の闘いもあったろう。

彼女は人智の方ではどうにもならぬ時の流れを見通していた。どうあがいても豊臣の天下は徳川に移って行く。親類縁者に合戦では徳川側に従うよう指示説得したといわれている。これにより東軍は勝利をおさめた。家康はこれに酬いるため京都東山に高台寺を建立し、北政所に贈ったり諸々の特典を与え手厚く遇している。
 一六一五年大阪の陣により大阪城は落城し、淀殿、秀頼は自害豊臣家は滅亡した。北政所はその後一〇年程永らえたが、一六二四年七七歳で波瀾の生涯を終えた。

○歴史散歩(第一二回)

とき 平成八年五月二〇日
 コース 鎌倉五山と国宝の鐘めぐり
 説明者 荒井太郎・村木美喜雄氏



円覚寺にて

参加者 三五名

北鎌倉駅の円覚寺側出口に集合、荒井講師と村木会員のご案内で会員三四名は円覚寺(国宝梵鐘)を振り出しに浄智寺、建長寺(国宝梵鐘)



喜泉庵でお抹茶を頂く

寿福寺、と廻り鶴岡八幡宮前で自山昼食となりました。

午後は全員バスで浄妙寺を拝観後同寺内の「喜泉庵」にて鈴木志げ子氏指導によりお抹茶を頂き、そこで解散しました。

好天に恵まれ若葉の季節を満喫出来たさわやかな一日でした。

料理教室

●薬膳健康づくり講演会に参加して

六月二二日(土)一〇時～一二時
薬膳健康づくり研究会(当こだま会会員 上野多恵子さんが会長)主催で、横浜市技能文化会館で開催されました。当会にも呼びかけがありましたので、有志が参加しました。

講演内容は

- 「成人病予防の中医理論と薬膳」 韓 晶岩先生
- 「コレステロールと健康」 関本邦敏先生

高齢者にとって非常に有意義なお話でした。

各部会入会ご希望の方は、ハガキで事務局までご連絡下さい。行事のご案内はその都度、部会員に連絡しています。

○歴史散歩(第一四回)

秋の鎌倉―寺宝、国宝、美術工芸を訪ねて!

とき 一〇月九日(水)

午前九時三〇分(時間厳守)

集合場所 JR鎌倉駅表口

コース 鎌倉駅前―バス―①鎌倉宮宝物殿―バス―②鎌倉

予告!! 予告!!

趣味の会

彫資料館―昼食―③鎌倉国宝館―④鶴岡八幡宮宝物館―⑤県立近代美術館―⑥東慶寺宝蔵―北鎌倉駅前解散
(午後三時三〇分頃)

説明者 荒井太郎氏

○今年最後の歴史教室(第二七回)

懐島(フトコロジマ)の史跡を訪ねて―茅ヶ崎

とき 十一月一八日(月)

ところ 神奈川県自治会館

○健康ウォーク会

『足柄峠の古道を歩く』

とき 一〇月二四日(木)

コース JR御殿場線足柄駅―足柄峠―足柄萬葉公園―駿河小山駅

リーダー 松尾良文氏

(約四時間の歩行です。)

○旅行の会

『香風溪の紅葉と三ヶ日天然温泉の旅』

とき 十一月二五日(月)―二六日(火) 一泊二日

コース 横浜―厚木―岡崎―香風溪―三ヶ日温泉(泊)―浜松フルーツパーク―登呂遺跡―日本平―清水―厚木―横浜

今回の旅行は従来と異なり、バス一台貸切りの企画をいたしました。乗車定員四名です。席に余裕がある場合、旅行の会に未加入の方でもご参加出来ます。旅行代金は一人、二三、〇〇〇円です。お問合せは一〇月一五日(火)一〇時半～一六時の間事務局まで。

■定期総会 余話

総会は始めての出席者も多く盛会でしたが、それに加えて心暖まる嬉しい出来事がありました。

それは新しく加入された難波ハマさん(蚕業センター退職)から、出席者全員に可愛い「まゆ人形」が配られたからです。難波さんの作る「ゆきんこ」は一つの人形に三粒の繭を使って作ってあります。本当にカワイイ、カワイイお人形です。総会までに一〇〇個も作りため持参されました。本当にありがとうございます。希望される方があれば、いつでも作りまします、と話していらっしゃいました。



ゆきんこ

■会員の労作 寄贈される

平野拓男(たくお)氏は、神奈川県衛生監視員として、県下の保健所でお仕事をなさった方です。環境衛生の管理技術の専門を生かして活動なさっています。

『くらしと微生物』『微生物と酒人』と題する論文が寄贈されました。

住宅・福祉情報

シルバーリフォームを

すすめる懇談会発足

高齢者の要望に応え

先頃、横浜市は市内の住宅事情を調べた「よこはま住宅白書」を発表しました。白書によると一人暮らしの高齢者(65歳以上)は約三万三千世帯、夫婦だけで生活しているのが約五万九千世帯と十年前の二倍以上に増えて、住宅事情でも急速な高齢化がすすんでおり、借家に住む高齢者は住宅環境に恵まれない人が多いことを明らかにしています。

こだま会のアンケートの結果によると、会員の住宅状況は持ち家が一戸建て90・6%、マンション5・8%、合わせて96・4%となっています。神奈川県持ち家率76・6%(65歳以上)、年金者組合県本部の組合員アンケート結果72・1%と比較しても持ち家率はきわめて高くなっています。

しかし、比較的恵まれているともわかれる持ち家の人も、高齢期をむかえて日常の住宅の維持管理の問題をはじめ、老朽化、狭隘、子供との

同居などから建て替え、リフォームなどの問題を抱えています。リフォームするにしても資金の調達、信頼できる業者の選択など、いろいろと頭を悩ませているのではないのでしょうか。

建設労が呼びかけ

建設職人・業者などで組織されている神奈川県建設労働組合(神建労)では高齢者・障害者の住宅リフォームのニーズに適切に対応するとともに、建築業者として営業の拡大をめざして「シルバーリフォーム」を取上げ建築専門家・福祉関係者・行政などの協力をえて、組合員向けの手引書「シルバーリフォーム心得帳」を発行、学習会を開くなど積極的に運動をすすめてきました。

また、神建労(業者団体)とユーザーとしての高齢者・障害者団体の話し合いの場として「シルバーリフォームをすすめる懇談会」発足させようと呼掛けがおこなわれ、八月一日、神建労、年金者組合県本部、県民主医療機関連合会(民医連)、県社会

保障推進協議会などが集まり、初の懇談会が開催されました。

家に戻れぬ入院患者

年金者組合からは組合員の持ち家率は高いものの、「老朽化し地震・火災が心配」「住宅が高齢期に適応していない」「階段からの転落、浴室での転倒など家庭内事故の発生」「老いた親の介護ができない」「新たにローンが組めない」など組合員の声が、民医連からは「高齢者の患者の住宅環境は極めて劣悪で、退院してもベッドの置き場もなく、家に帰れない」「特別養護老人ホームに追いやられるか、なかなか入れない」「住宅が若い健常者中心で高齢者、要介護者、障害者が生活できない」など、いくつか問題提起されました。

神建労からは「組合員には小規模の業者が多く、要望があれば小さい改造や修理でも、近くの組合員を無料相談にいかせる。トイレの改修ひとつでも要望をとりいれ障害の程度に対応したきめの細かい仕事をしたい。また、自治体・公庫・年金などの融資、補助金のことなどなんでも相談に応じていく。耐震診断は自治体が無料で行っているので利用してほしい。あまり知られていないのではないか」と発言がありました。

懇談会は今後も継続するとともに、各団体とも神建労が個別にリフォームを希望する会員や組合員の住宅相談に対応する仕組みやPRの方法などを検討することとなりました。

力を合せて住宅改善

さらに、阪神大震災の犠牲者の大半が老朽住宅に住む高齢者であったこと、高齢を理由に借家の立ち退きを迫られているなど、高齢者の住宅問題はきわめて深刻で、緊急に解決がせまられています。公営の高齢者用住宅や老人ホームの大量建設、増改築の融資・補助金の枠の拡大など、高齢者の住宅改善を求めて、自治体などにたいし運動をすすめることもきめました。今後は退職者会、障害者団体、高齢者団体などに参加を呼び掛けていくことにしました。

こだま会でも会員の住宅リフォームをはじめ、住宅に関する要望に対応するため、ぜひ懇談会に参加したらいいのではないかと思います。最後に、高齢者にとつての住宅問題は、寝たきりや障害がでてからの問題ではなく、元気なときにある程度の準備を心掛けておくこと、障害事故の未然防止対策や健康に過ごせる住宅環境づくりが必要なのです。

(文責・山口)

保健情報

クスリに関する11章

⑤

●クスリをたくさんくれるわけは●

昔、お医者さんが出すクスリは、小さな袋ひとつだったのですが、いまは大きな袋にいっぱいです。クスリ漬けではないかと心配される方もいらっしゃると思いますが、なぜ、こうなったかというと、ひとつには製剤技術が進んだためです。

昔は処方箋がでますと、薬剤師さんがそれに従って、それぞれのクスリびんから少量ずつをとって、乳鉢の中でこすって混ぜ合わせ、薬包紙に包んでくれました。しかし、これは、さじ加減というのをまちがえたらあぶないし、配合禁忌というのがある、うっかり混ぜ方をまちがえると、そこで分解したりすることもあるわけです。

それを防ぐために、2ミリ入った錠剤、5ミリ入った錠剤というように、錠剤をそろえておけば、これが2ミリ、これが5ミリというときに、その錠剤を数だけとれば、正確にそのクスリが処方できるわけです。

それで全体をあわせると、クスリの量はふえているようにみえますが、ふやしているのは、錠剤にするための、でんぶんとか、乳糖とか、からだの中に入って

も何の役にもたたないようなものです。

ですから、そういう意味で、量がふえたことは心配なさらなくてもいいのです。

それから、副作用をおさえたりするために、クスリがふえていることがあります。たとえばアスピリン系のクスリは胃の粘膜をあらしますから、一方で胃の粘膜を保護するようなクスリを飲みます。

また、このクスリを飲むとビタミンをこわす恐れがあるから、ビタミン剤を補充しようとか、制ガン剤で非常によく効くけれども吐き気をおこす、というのは吐き気をとめるクスリも飲みます。一種類のクスリでは、きつすぎるから、二種類のクスリの相乗作用で効かせる、そういうことでもクスリはふえています。

しかし、あまりにも、いろんなものから次から次に加えられていくのは心配です。また、こんなことはあつてはならないのですが、経済的効果のためにお医者さんがいくつもクスリを出すのは、さけないことです。クスリの量はできるだけ、少ないにこしたことはないのです。

(「暮らしの手帖」から)

斗病体験記

がん「早期発見」「早期治療」を実感

松村当会副代表幹事からのお手紙

拝啓

猛暑の季節となりました。お元気で過ごしのこととお喜び申し上げます。

さて、この度の入院にさいしましては大変なご迷惑とご心配をかけ、申し訳ありませんでした。

お蔭様で六月三日に無事退院し、自宅にて療養生活を送っております。手術後の合併症や余病もなく、食餌療法と軽い散歩などで体力も少しづつ回復してまいりました。

今年の春先、身体に異常なだるさを感じ、医療生協の病院で精密検診をしていただいたところ、内視鏡検査で胃に癌細胞が発見されました。すぐ国立相模原病院を紹介していただき、四月中旬に入院、五月十日に手術をしていただきました。

健康だと過信して毎日を送っていた私が突然、胃の大手術を受けなければならぬという大変な病気を患ったという実感がなかなか感じられませんでした。でも五十日間に及ぶ入院生活中に、主治医の先生や看護婦さん、そして入院患者の仲間の皆さんの話を聴くにつけ、私が「早期発見」「早期治療」の恵まれた患者だったということを知ることができました。とくに手術に当たった主治医の説明で「初期癌だから九九%完治しますよ」と言う言葉がいまでも印象深く思い出されます。あらためて検査や治療に当たっていただいた先生方をはじめ、ご心配をいただいた皆様方に心から御礼申し上げますと共に、この幸運を大切にしたいと思っております。

本来ならば直接お伺いして御礼を申し上げますところですが、静養中のこととて失礼ながら書面をもって御礼のご挨拶とさせていただきます。

末筆になりましたが、皆様の益々のご健康を心からお祈り申し上げます。

一九九六年七月 吉日

敬具

松村 邦

町から村からの連帯でひとりぼっちの年よりをなくそう!

愛知県 第10回 1996 日本高齢者大会

【会場】名古屋市総合体育館レインボーホール 9/1
 蒲郡市三河三谷温泉 9/2
 【主催】第10回日本高齢者大会中央実行委員会
 愛知県実業行委

日程

9/1(出)	11:30	13:00	16:00	18:00	20:00
	受付	全体会	宿舎へ	夕食交流会	
9/2(日)	6:00	7:00	9:00		12:00
	早朝講座 早朝散策	朝食 会場へ	公開講座・シンポジウム 分科会・分散会		

六千名の大集会!!

一〇回目の節目を迎えた全国高齢者大会は、ことしから日本高齢者大会と改称された。こだま会からの参加者四名、鈴木三、青木生方・木村。神奈川県からは九六名、全体では六千名の熱気をはらんだ集会となった。

「人間の尊厳を守る闘いをさらに進めよう」を目標に、中心はやはり消費税・介護・沖縄であった。第一日は、こういった基調・活動報告で全体の情熱や各地の状況がよく分かり心強く思えた。時間がおせおせになり村上昭子さん(家庭料理研究家)の講演が充分聞けなかったのは残念だった。(女性のみか?)

温泉そして勉強に励む

三河湾国定公園の海に面する三谷温泉へ移動して宿泊。第二日は勉強会の色彩が濃い。早朝講座には「男と女のいい関係―高齢期の性と生―」(鈴木)、「竹島散策」(木村)それぞれ、体の営み、自然の営みに大感激した。

公開講座・分科分散会は4名分かれて、「高齢者をめぐる社会保障」、「ボランティア活動」、「地域での文化活動」に参加し、暑いそして熱い大会を終えた。
 来年は「北海道(札幌)」で開催される。



会場へ急ぐ人びと

手づくり文化祭(第二回)に参加を!!

―自治労連退職者会主催―

とき 二月一日(日) ところ 横浜市
 従会館 催し物 演芸大会、趣味作品展、飲み物、弁当提供

「加入のおすすめ、と 会費納入のご案内」

「退職者こだま会」へ加入ご希望の方には、規約・入会申込書、会費振込用紙などお送りします。お申込ください。

●所在地

〒231 横浜市中区本町四の三七
 神奈川県職労事務局内(3F分室)
 「退職者こだま会」宛
 (電話)〇四五(二)〇一(一)一一一
 (内線七九五三)

●振替口座

横浜銀行県庁支店
 普通預金口座番号 八七八一三九

神奈川県労働金庫本店
 普通預金口座番号 一二四八六四二

郵便振替口座
 〇〇二五〇―九一六六五八〇

会費関係
 1)入会金 なし
 2)終身会費 二五、〇〇〇円
 なお、年会費三、〇〇〇円も
 あります。

編集・発行
 県職労退職者こだま会
 発行人 鈴木志げ子
 発行日 1996.10.1

No. 36

横浜市中区本町4-37
 TEL 045-212-3179(直通)
 045-201-1111
 (内線7953)